年間第 23 主日　マタイ 18：15：20

何かの集まりで、山口・島根地区の教会について話し合う機会がありました。「高齢化が進み、若い人は来ない。これからの教会はどうなるんだろう？」「人数が少なくなる教会に奉仕し続けることに意味があるんだろか？」「他にすることがあるんじゃないか？」という意見もありました。すると山口教会の百瀬神父さんがこう言われました。「人数の問題じゃない、集まって祈る人たちがいる限り意味がある」と言われました。その根拠となるのが今日の福音の結びの言葉です。「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる。」

私たちは、教会を組織として見るところがあります。そうなると、高齢化が進む教会は衰える一方に見えてきます。でも、そうじゃない。思いを一つにして共に祈る時、イエス様はそこにおられます。小さくても立派な教会になります。

1 つ、私の経験をご紹介します。サラリーマンの時、名古屋の南山教会のレジオ・マリエに参加していた時です。私は、身障者のボランティアには熱心でしたが、祈りには関心がありませんでした。ロザリオの祈りにしても、毎回同じことの繰り返しで、途中で眠くなってしまったからです。でも、事態を変えることが起きました。

千葉の実家にいる妹から結婚のことで電話が掛かってきました。妹は職場の方とお付き合いをしていましたが、弟さんが身障者で家族が反対していました。妹から泣き声で電話がありました。「家にいると監視されてるようで、息苦しい。お兄ちゃん、帰ってきて」と。もちろん、私がいたから必ず事態が良くなるわけでもありません。それに「妹が帰ってきて欲しいというから、千葉に転勤させて欲しい」と会社には言えません。そこで、レジオ・マリエの集会で「妹の結婚話が進むようにお祈りしてください」とお願いしました。その日から、毎週の集会でみなさんが熱心にお祈りしてくださいました。私も、お相手が初めて実家の両親に会う時には、「何とか、いい方に話が進んで欲しい！」と願いながら、知多郡の巨峰を両方のお家に送りました。

すると、お相手に会った父は「大事にしてくれるかどうかが大事だ。要は人物だ」と、「何が何でも反対だ」、という態度にはなりませんでした。幸い、それを機会に結婚話は進みました。そうなった大きな理由は、レジオ・マリエの皆さんの祈りだと思っています。それ以来、私の祈りに対する態度も変わりました。「共に祈る祈りには力」があることがわかりました。ある面、4 年間学んだ神学よりも私にとっては大切な体験です。

みなさんにはそのような体験がおありでしょうか？　行き詰まった時に、共に祈ってくれる

人たちがいる。「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる。」そう実感できる体験を願いましょう。小さくても立派な教会を築いていきましょう。